



SANDEN

Delivering Excellence

CSR REPORT 2017

*Responsibly Creating
Shared Value*

サンデングループ



トップメッセージ



時代の変遷の中で、常に挑戦、変革し続け、皆さまの期待に応えてまいります。

サンデンホールディングス株式会社
代表取締役社長
神田 金栄

サンデングループは、「冷やす・暖める」をキーテクノロジーとして、時代と共に業務用冷凍・冷蔵ショーケース、自動販売機、カーエアコン用コンプレッサー、カーエアコンシステムなどへと事業活動を広げ、世界中のお客さまと取引をさせていただいています。

当社グループにおきましては、昨今の為替の変動や市場環境の変化により、2016年8月から抜本的構造改革に取り組んでまいりました。全社を挙げて抜本的構造改革に取り組むとともに、社員一人ひとりが価値ある仕事を追求し、改善改革活動を展開し、着実に成果が出てきています。これも当社グループに関係されるステークホルダーの皆さまのご支援、ご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

企業価値創造に向けた取り組みを推進

当社グループでは、成長路線への回帰を目指し、2017年度を初年度とする2020年度までの中期経営計画をスタートさせました。全社を挙げて抜本的構造改革を速やかに完遂するとともに、中期経営計画における重点施策である4つの柱に基づく取り組みを積極的に進めています。

特に、「企業価値創造に向けた事業ポートフォリオの適正化」につきましては、当社グループが掲げる「環境成長領域」への資源集中を行っています。

中期経営目標 (2020年度連結ベース)

売上高	3,200億円
経常利益率	5%
株主資本比率	25%

4つの柱からなる重点施策

1	収益性向上に向けたコスト構造改革	調達構造改革
		生産性革新
		品質改革
2	財務体質強化に向けた資産効率改善	投資の選択と集中
		運転資本削減
		ノンコア資産売却
3	企業価値創造に向けた事業ポートフォリオの適正化	環境成長領域への資源集中
		コーポレート・ガバナンスの強化
4	持続的成長に向けた経営システム革新	グローバル経営管理の強化
		意思決定システム改革

自動車機器事業におきましては、ハイブリッド自動車や電気自動車などの「環境対応車」の普及が進む中、ヒートポンプシステム、電動コンプレッサー、CO₂コンプレッサーなどの「新技術・新商品」を主軸に、熱マネジメントシステムの視点から、さらなる成長を図ってまいります。

企業理念体系

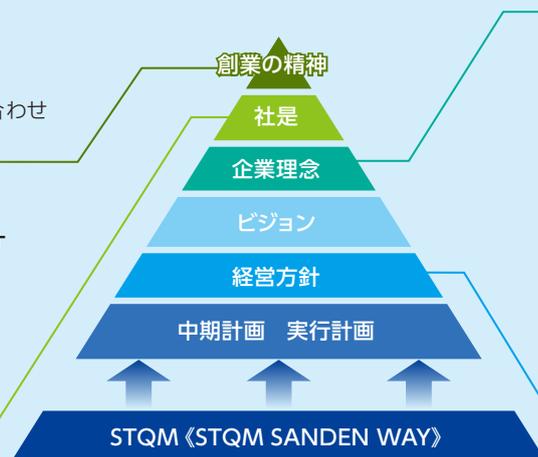
企業理念体系は、サンデンがグローバル・エクセレント・カンパニーズとして果たすべき企業および社員の行動の原点を体系化したものです。

創業の精神

知を以て開き 和を以て豊に
知力により開発・開拓し、みんなの力を合わせ
繁栄しようという意味です。

社是

- 一、顧客のためになるよい製品を作ります
 - 一、仕事を通じて
社会福祉と文化の向上に寄与します
 - 一、自己啓発につとめ
誇り高き会社の建設に努力します
- 会社創業以来の社員の行動基軸です。



経営方針

環境から企業価値を創造する
グローバル力と品質力を基礎に
環境をコアにして次の成長を果たす

流通システム事業におきましては、大きく2つの成長の軸で進めてまいります。ひとつは「新市場」です。これまで国内で培ってきたコールドチェーンのビジネスモデルをグローバル、特にアジア市場に展開します。もうひとつの軸は「新技術・新商品」です。現在のコールドチェーンにIoT技術を加えた、高品質・高鮮度の「最適温湿度管理」を軸に、高効率コールドチェーンシステムで、お客さまにソリューションを提案・提供し、成長を図ってまいります。

コンプライアンス／コーポレート・ガバナンスの強化

2017年3月、当社と欧州にある当社グループ会社は、EU競争法に違反する行為を行ったとして、欧州委員会から課徴金の支払いを命ずる旨の決定を受けました。当社グループは、この事態を極めて厳粛に受け止め、コンプライアンス体制および規程の見直し、社員の再教育、定期的な監査の取り組み等、さらなる徹底と強化に取り組んでいます。

また、2017年6月、新たに社外取締役1名を招聘（しょうへい）し3名体制とするとともに、任意の指名・報酬委員会を設置しました。コーポレート・ガバナンスの強化をより一層進めていくとともに、企業の社会的責任を果たしながら、持続的な成長と中期的な企業価値の向上を図ってまいります。

社会から信頼されるサンデングブランドの確立に向けて

当社は、2018年に創業75周年を迎えます。当社グループの企業理念体系のもと、時代の変遷の中で常に挑戦、変革し続け、社会と時代のニーズに合った製品、システム、サービスを提供し、社会から信頼されるサンデングブランドの確立に向けて取り組んでまいります。

これからもあらゆる機会において、ステークホルダーの皆さまと積極的にコミュニケーションを深めてまいりたいと考えていますので、引き続きのご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

Contents

- 1 トップメッセージ／企業理念体系
- 2 At a Glance
- 4 **特集：Responsibly Creating Shared Value**
- 4 価値を生み出すサンデンの人財
- 6 時代を切り開く環境技術
- 8 サンデンと環境
- 12 サンデンとお客さま
- 13 サンデンと社員
- 14 サンデンと取引先／サンデンと株主・投資家
- 15 サンデンと地域社会
- 16 コーポレート・ガバナンス／コンプライアンス
- 17 第三者意見

編集方針

サンデンググループは、ステークホルダーの皆さまとの関わりや、事業内容を分かりやすくお伝えるため、2005年から「サンデンCSR報告書」を毎年発行しています。本冊子は企業理念と経営方針に基づく基本的な考え方・取り組みを掲載したダイジェスト版です。Webにはより詳細なデータや最新の活動に関する情報を公開しています。

● 対象期間

2016年4月1日～2017年3月31日

活動や取り組み内容は2017年4月以降につきましても、できるだけ最新の動向をお伝えしています。

● 対象範囲

本報告書はサンデンググループ（サンデンホールディングス株式会社と連結子会社および関連会社）を報告対象としていますが、一部の項目については個別に対象範囲を明記しています。

● 参考にしたガイドライン

GRI「サステナビリティ・レポートング・ガイドライン」、環境省「環境報告ガイドライン2012」を参考にしました。

企業理念 G-SDC（サンデンググループ）は国の内外を問わず法令、国際ルールを遵守し、次の10原則に従い行動します。

基本原則 国際社会の中で共感する普遍的価値観

1. 良き企業市民、社会との調和	国際社会の一員として社会と調和し、社会から信頼される良き企業市民として成長していきます。
2. 人権尊重	あらゆる人の尊厳と基本的人権尊重の精神に基づく企業文化を築きます。
3. 環境	かけがえのない美しい地球を次の世代の人々に引き継ぐために、企業活動のあらゆる面で環境の保全に配慮して行動します。
4. 企業倫理	高い倫理観のもと、誠実でフェアな企業活動を行います。
5. 安全衛生	社員のゆとりと豊かさを実現し、安全衛生と健康に配慮した働きやすい環境を確保します。

ステークホルダーに対する基本姿勢

6. お客さま	技術開発とモノづくりを基本として、品質を第一に考え、常に世界中のお客様に満足される魅力のある製品、システム、サービスを提供します。
7. 社員	挑戦と改革の企業文化を基本として、人間性尊重の精神に溢れた自由闊達な組織文化を築き、社員とともに成長していきます。
8. 株主・投資家	会社を成長させ企業価値を高めるとともに、経営の透明性向上により、株主・投資家の信頼と期待に応えます。
9. 地域社会	世界各地域の慣習や文化を尊重するとともに、地域社会の発展や文化の向上に貢献します。
10. 取引先	取引先とは公正かつ透明な取引関係に基づき、お客さまに対し最高の製品、システム、サービスを提供できるビジネスパートナーとして、ともに成長します。

At a Glance

事業展開

セグメント別売上高構成比 (2016年度)



自動車機器事業

地球と人にやさしい次世代の空調システムを追求しています。サンデングループのカーエアコンシステム製品は、自動車の電動化ニーズにもいち早く対応し、世界中の自動車メーカーや建機・農機メーカーに採用されています。

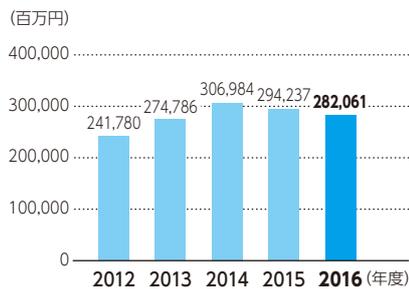


流通システム事業

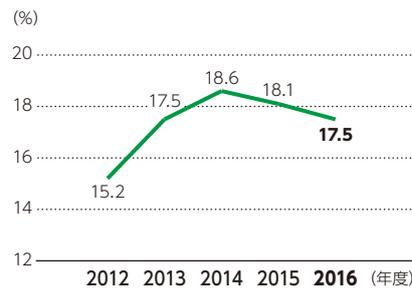
店舗システムとベンディングシステムの分野を中心に、食品流通ビジネスを支えています。お客様のビジネス成長に貢献する環境配慮型の製品、システム、サービスをグローバルに提供しています。



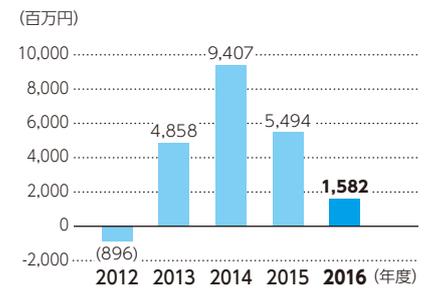
売上高



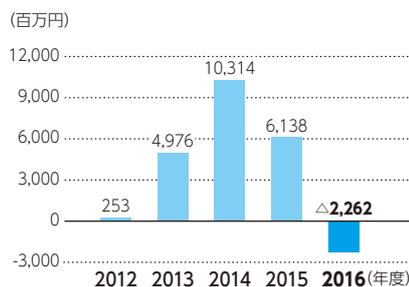
売上総利益率



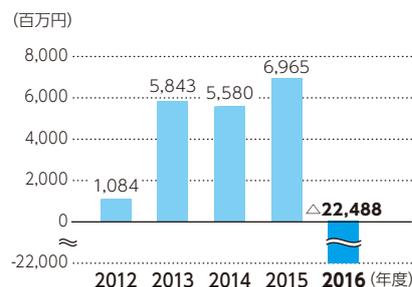
営業利益



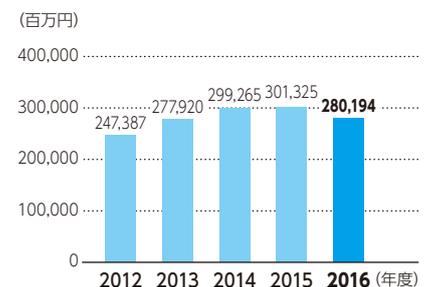
経常利益



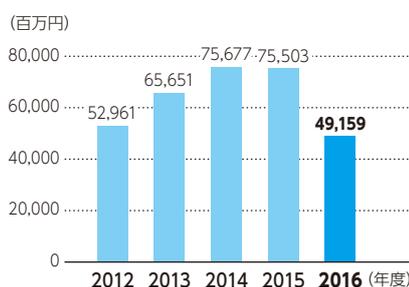
親会社株主に帰属する当期純利益



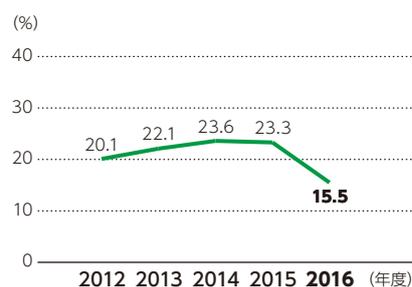
総資産



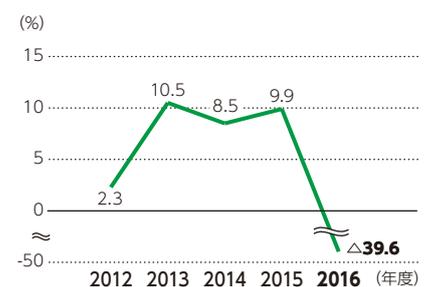
純資産



自己資本比率

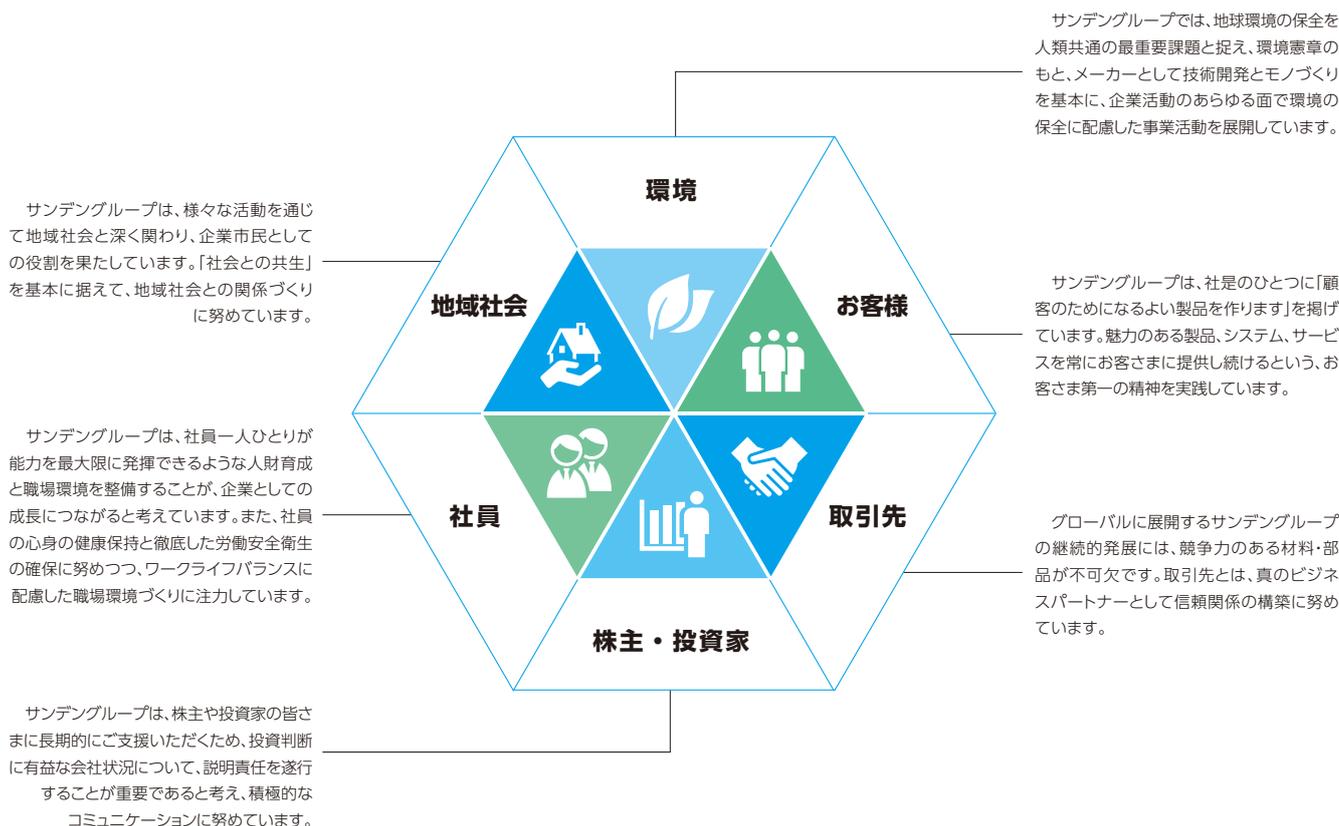


ROE



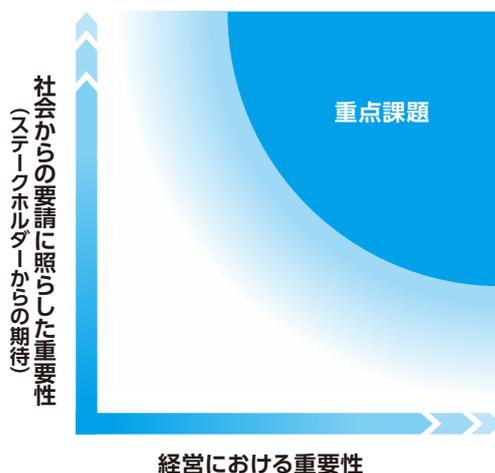
サンデンのCSR

サンデングループでは「CSR＝企業理念の実践」と位置付けて企業活動を行っています。国内外のお客さまをはじめとするステークホルダーの皆さまのCSRに対する関心が高まる中で、2014年度にCSR推進委員会を設立、委員会の中で重点課題を策定し、活動を進めています。



重点課題策定の手法と結果

「企業理念」に掲げている「環境」「お客様」「社員」「株主・投資家」「取引先」のそれぞれにおいて、CSR活動項目に関係する部門ごとに「経営における重要性」と「社会からの要請に照らした重要性（ステークホルダーからの期待）」という2軸からマッピングを実施しました。そして今後は、抽出されたテーマである「環境」「人」に関わる取り組み目標をより具体的にし、グループ全体でCSR活動のレベルアップを図っていきます。



環境

- ・ 環境技術開発の推進
- ・ 環境負荷低減への対応
- ・ 製品リサイクルの推進
- ・ 気候変動問題への対応

人

- ・ ダイバーシティの推進
- ・ ワークライフバランスへの取り組み
- ・ 人材育成
- ・ コンプライアンスの浸透・徹底

価値を生み出すサンデンの人財

サンデングループでは、創業の精神である「知を以て開き 和を以て豊に」(P1参照)を基本に、持続可能な社会の実現に向けての検討を続け(P3参照)、当社グループのCSR重点領域を、「人」と「環境」に設定しました。2016年度は、取り組み目標をより具体的にし、グループ全体で取り組みました。

社会課題

働き方改革

日本においては、人口減少・少子高齢化が進み、2100年には総人口が4,959万人になると推計されています。そのためサンデングループでは、育児介護支援、高齢者雇用促進、総労働時間の抑制など、その時代背景、社会からの要請に合わせ、様々な「働き方改革」に取り組み、制度を整えてきました(年表参照)。

2016年度は、2015年度にCSR重点領域「人」を設定したことを受け、これまで取り組んできた「働き方改革」の施策を年表で整理するとともに、課題の抽出を行いました。



戦略領域

ワークライフバランスの推進

サンデングループでは、「ワークライフバランス」を推進するため、休日の確保や日々の勤務時間短縮、残業時間の削減を進めてきました。当時まだ珍しかったフレックス勤務や、コア無しフレックス勤務を導入して、社員の働きやすい勤務体制を整えてきました。

この結果、2016年の一人当たりの総労働時間平均*1は、2005年の2,108時間に比べ、1,965時間と大幅に減らしてきました。

一方、現在の課題としては、有給休暇の取得促進と、社員の事情に配慮した柔軟な就業の実現を掲げています。

有給休暇に関しては、取得を推進するための制度として、連続年休、記念日休暇、リカレント休暇(連続5日*2)という制度を整えていますが、まだまだ、全社的な取得推進が進んでいるとは言えません。

*1 所定労働時間平均+時間外労働時間平均-有給休暇取得時間平均
*2 前後の土・日を合わせて連続9日間

サンデンにおける働き方改革(制度・仕組みの導入)の変遷

	~2007	2008	2009	2010	2011
就業制度	<ul style="list-style-type: none"> コア無しフレックス制度導入 計画年休取得制度導入(記念日休暇、連続休暇、リカレント休暇) ボランティア休暇制度導入 復職トライアル勤務制度導入 	<ul style="list-style-type: none"> 公務休暇新設 慶弔休暇日数増加 記念日休暇増日 キャリアカムバック制度導入 	<ul style="list-style-type: none"> 代休制度廃止(振替休暇による休暇取得促進) 		<ul style="list-style-type: none"> 時間単位年休制度導入
育児・介護支援	<ul style="list-style-type: none"> 看護休暇新設 積立療養休暇改定(看護追加) 時間外勤務細則新設(育児・介護における時間外労働の制限) 	<ul style="list-style-type: none"> 育児支援サービス制度導入 	<ul style="list-style-type: none"> くるみん認定(次世代育成支援対策推進法) 	<ul style="list-style-type: none"> 介護休暇新設 看護休暇:対象者拡大 積立療養休暇改定(介護追加) 時間外勤務細則改定(育児における時間外労働免除) 	
労務管理	<ul style="list-style-type: none"> 勤怠IDカードシステム導入 内部通報制度導入 		<ul style="list-style-type: none"> 幹部マネジメントサーベイ実施 	<ul style="list-style-type: none"> ハラスメント防止委員会設置 	
安全衛生				<ul style="list-style-type: none"> リスクアセスメント活動開始 	<ul style="list-style-type: none"> 管理者メンタルヘルス教育開始 健康チェック・産業医面談開始



ケーススタディ

安全衛生への取り組み

2016年は、「安全第一、全員参加の安全衛生活動で、安全で安心して働ける職場をつくる」という安全衛生方針を掲げ、KYT活動等の基本行動の徹底を加え「リスク改善キャンペーン」を実施しました。一人ひとりの日々の仕事の中で、ヒヤッとした、ハッとした、危険だ、と感じた作業、設備などのリスクを報告し、職場の改善につなげるもので、この活動に2,126人が参加し、3,265件の不安全状態の改善を図りました。

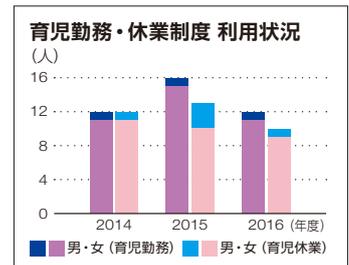
また、衛生面では、ストレスチェック制度を導入し、全社員のストレスチェックによる、自身のストレス状態把握と職場環境評価によって、より働きやすい職場環境への改善が行われています。



育児・介護制度の拡充

サンディンググループでは、妊娠、出産、育児期や家族の介護が必要な時期に、男女共に離職することなく働き続けることができるよう育児・介護の制度を整えました。出産による離職はほとんど無くなりましたが、さらに安心して働き続けられる環境を実現するためには、社員の様々な事情に配慮した勤務形態の導入が必要であると考えています。2016年度は、介護世代の離職率が年々増加傾向にあることや、当社グループ社員の45～55歳の介護世代が960名いることから、介護に関する制度を取得しやすくし、利用期間の拡充を図りました。

現在、さらに社員の様々な事情に配慮した勤務形態の導入を検討しています。



2012

2013

2014

2015

2016

2017

● キャリア面談制度導入

● 外勤者みなし労働廃止
(労働時間把握適正化)

● 育児・介護関連規程改定
・休業・短時間勤務期間延長
・利用範囲拡大
● ぐんまいいきいきGカンパニー
(ゴールド)

● 新就業マネジメントシステム導入
(労働時間適正把握・時間管理強化)

● 過重労働撲滅活動開始 ● 管理者労務管理教育開始
● 時間管理ガイドライン展開

● 労働安全衛生マネジメントシステム (OHSAS) グローバル導入宣言 ● 産業医によるメンタルヘルス面談開始
● メンタルヘルスマネジメント研修開始

● リスク発見キャンペーン展開 ● 安全道場設立

● ストレスチェック制度導入 ● リスク改善キャンペーン展開
● 職場環境改善計画

時代を切り開く環境技術

サンデングループでは、地球環境の保全を人類共通の最重要課題と捉え、環境憲章のもと、メーカーとして技術開発とモノづくりを基本に、企業活動のあらゆる面で環境の保全に配慮した事業活動を展開しています。

社会課題

自動車機器事業



環境負荷の少ない自動車へのニーズ

社会生活の中で、欠くことのできない自動車は、環境規制の強化や消費者の環境指向に伴い、駆動方式がエンジンやモーターなど多様化しています。そのような環境変化の中、自動車メーカーは、地球温暖化対策を重要課題のひとつとして捉え、より環境負荷の少ない自動車を追求しています。

戦略領域



カーエアコン、コンプレッサー

当社グループでは、より快適な車内空間の提供と環境保全を実現する、カーエアコンシステムおよびカーエアコン用コンプレッサーの技術開発を進めています。地球温暖化防止に向け、快適環境を実現する「熱マネジメント技術」や燃費向上を目指した小型軽量化・省エネ技術の追求に加え、自然冷媒(CO₂)を採用したコンプレッサーの開発に取り組んでいます。

流通システム事業



食の安全・環境対策へのニーズ

流通業界では、少子高齢化などの社会的問題や顧客ニーズの変化により、商材・サービスの多様化が進んでいます。経済の活性化や地域コミュニティ維持への期待とともに、食の安全・安心に対する品質管理要求、食品ロスの最小化に対する環境管理要求も強く求められています。



自然冷媒(CO₂)ショーケース、 温湿度モニターサービス

当社グループでは、温暖化係数が小さくオゾン層を破壊しない自然冷媒(CO₂)と、ヒートポンプ技術を組み合わせた冷蔵・冷凍ショーケース、自動販売機を市場に投入してきました。さらに、2016年度に発売した食品流通全体での一括した温湿度管理システムとの融合により、環境問題、食の安全・安心を支える製品・システム・サービスを展開しています。

社会からの要請に照らした重要性
(ステークホルダーからの期待)



- 環境**
- ・環境技術開発の推進
 - ・環境負荷低減への対応
 - ・製品リサイクルの推進
 - ・気候変動問題への対応
- 人**
- ・ダイバーシティの推進
 - ・ワークライフバランスへの取り組み
 - ・人材育成
 - ・コンプライアンスの浸透・徹底

ケーススタディ

CO₂冷媒コンプレッサー

冷凍・冷蔵ショーケース、自動販売機等の様々な製品開発で培ったCO₂冷媒技術をカーエアコンシステムに応用し、CO₂冷媒を採用したカーエアコン用コンプレッサーを開発。量産体制を築き、世界で初めて*本格的な市場供給を開始しました。CO₂冷媒は運転圧力がHFC-134aに比べ約5倍になることから、高耐圧構造・高气密性を実現するための高い技術力が必要とされます。しかし、ヒートポンプシステムと組み合わせることで、さらなる省電力化に貢献することから、今後も技術開発を推進し、自動車産業の発展と地球環境保全に積極的に貢献していきます。

*当社調べ



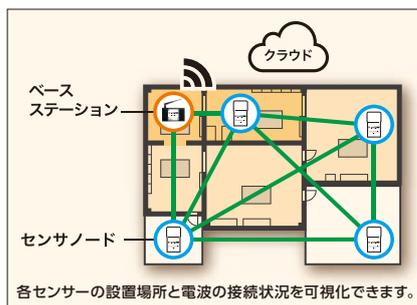
サンデン・オートモーティブコンポーネント株式会社は、CO₂冷媒を採用したカーエアコン用新型コンプレッサーを開発。2017年5月から独ダイムラー社に量産車向けとして本格的な供給を開始しました。

ダイムラー社 プロジェクトリーダー ラルフ・トイラー博士のコメント

「本製品の開発にあたって、CO₂冷媒を使用した製品開発の豊富な経験を持ち、新技術へのチャレンジ精神に溢れたサンデンを選択しました。短期間での商品化を目指した本プロジェクトは、当社にとっても非常に挑戦的であり、サンデンとの戦略的パートナーシップによって立ち上げが成功したことに満足しています。」

クラウドベースの温湿度モニターサービス [e-mesh moderno] (イーメッシュ モデルノ)

食品や医療をはじめとするあらゆる分野で、安心・安全への関心が高まる中、IoT (Internet of Things) 技術を用いたクラウドベースの温湿度モニターサービス [e-mesh moderno] を提供しています。あらゆるロケーションにおいて、よりきめ細かい温湿度管理ができ、お客さまの品質管理を強力に支援いたします。例えば、食品分野では、生産者から食品工場、物流倉庫、店舗、消費者へと、産地から消費地まで一貫した温湿度管理が行えます。また、測定された温湿度データはクラウドサーバーに送信され、離れた場所からでもリアルタイムで状況を把握することができ、作業効率の飛躍的な向上が図れます。



サンデン・リテールシステム株式会社は、タイムマシーン株式会社と提携し、温湿度モニターサービス[e-mesh moderno]を2016年6月から提供しています。

長野県連合青果株式会社 常務取締役 上田社長 永井 一嘉様のコメント



「生産地からお客さまに届くまで、一貫して食品の鮮度を保つコールドチェーンへのニーズが年々高まっています。当社では、e-mesh modernoの導入により、庫内の温湿度変化の監視が容易になり、きめ細かい温湿度管理を実現することができました。今後さらにデータを積み重ねることで、食品に応じた最適な鮮度管理に向けた検証を行ってまいります。」

サンデンのCSR活動

サンデンと環境

サンデングループは、2014年度に策定した「第3次中期環境基本方針」を構成する4つの「Green」戦略—Green Technology、Green Management、Green Process、Green Communication—に取り組みました。

Green Technology

世界中の人々およびお客さまの環境指向ニーズを的確に捉え、「冷やす・暖める」のコア技術に「省エネ技術」を盛り込んだ「環境貢献新商品」を生み出す最先端の技術開発、商品開発を進めています。

自動車機器事業では、小型・軽量化、省動力化の技術開発に加え、温暖化係数が小さく、オゾン層を破壊しない二酸化炭素(CO₂)を冷媒として使用した、可変型コンプレッサーの量産を世界で初めて実現しました。また、ヒートポンプ技術を活用した高効率自動車エアコンシステムの開発も行いました。なお、製品の環境貢献度を測る社内指数の製品環境指標では、軽量化において目標が達成できなかったため、指標の目標達成率は95%でした。

流通システム事業では、二酸化炭素(CO₂)を冷媒にした自動販売機と共に冷凍・冷蔵ショーケースのラインアップを拡大し市場投入を行っています。

グローバルに広がるサンデンのテクノロジー



また、お客さまの嗜好の多様化に対応できるよう、「独自開発技術による」「きめ細かな」「艶のある」「泡密度可変な」「HOT&COLDフォーム」フォームドミルク調理技術を確立して、上質なラテメニューなどの新しいミルク商材を提供するとともに環境対応したコーヒー自動販売機を開発、市場投入しました。

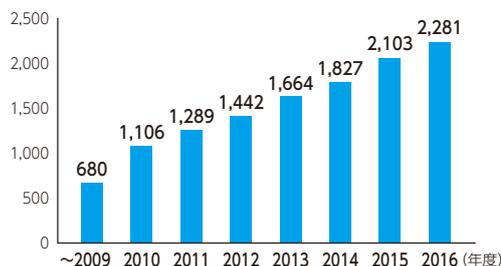
Green Management

経営方針である「環境から企業価値を創造する」を実現する環境経営を支える活動として、ISO14001に基づく環境マネジメントの実践、環境マインドを持った社員の育成、全員参加の環境活動を推進しています。

大気汚染など環境問題が深刻化している中国や、グローバル化学物質規制を牽引している欧州など、環境問題には地域的な特性があります。そこで、中国では、各拠点の環境活動の共有、環境リスク解決のための議論、そして各拠点の環境活動レベルの向上、中国における環境課題解決への貢献を目的に、第1回中国地区環境大会を開催しました。また、欧州でも各拠点の代表と環境推進者が集まり、第1回欧州地区環境大会を開催し、開催地を冠したタンティニアック・アグリーメントを採択し、継続的な環境改善活動を確認しました。

国内では、東海・北陸支店が、名古屋市から「エコ事業所」認定を受けました。この認定は、経営方針・環境経営がグループ内に浸透していることの表れです。また、環境マインドを醸成する一環として、国内社員へeco検定(環境社会検定試験)の受検を、経営方針が発表された2009年から推進しています。社外講師によるエコセミナーや社内での勉強会を通じて、2016年度は178名の合格者(エコピープル)が誕生し、累計で2,281名のエコピープルが日々の業務で環境に配慮した活動を展開しています。

エコピープル数の推移
(人)



Green Process

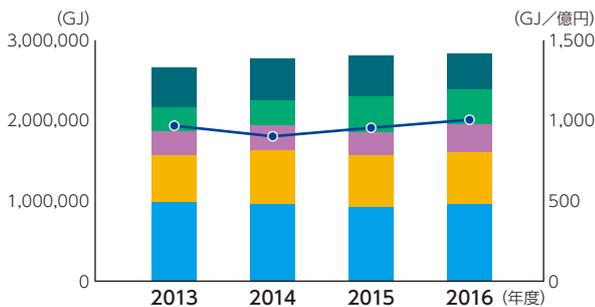
2018年度を最終年度とする「中期環境基本方針」を定め、各拠点で環境活動を展開しています。2016年度は、PDCAサイクルを確実に回すため、グローバル環境情報管理システムを導入し、環境データの変化をこまめに捉え、改善活動につなげる環境マネジメントを目指しました。エネルギー使用量は昨年度と同等でしたが、国内における販売減や為替の影響等により売上高原単位は、2015年度比5%の悪化となりました。中期環境基本方針の達成に向け、生産性向上、エネルギー使用の見直し、省エネ機器への更新等を推進するとともに、拠点での改善委員会等を組織して、エネルギー使用視点で見た業務体質改善を進めています。

廃棄物排出量と水使用量は、絶対量および売上高原単位共に削減できました。特に中国では、第1回中国地区環境大会の開催と環境教育の実施により、大幅な削減ができました。

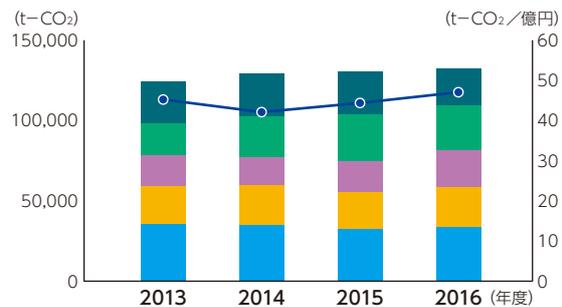
国内各拠点では、鉄系材料の有効活用を目指し、MFCA (Material Flow Cost Accounting) を展開しています。また、新たな取り組みとして、工場からの排熱等の有効活用と自社技術を応用した「創エネ」の可能性検証、そして、廃棄物で大きなウェイトを占め、職場環境も悪化させる水溶性切削油の削減等の活動も開始しました。

これからも環境負荷低減に向けた環境活動を積極的に展開していきます。

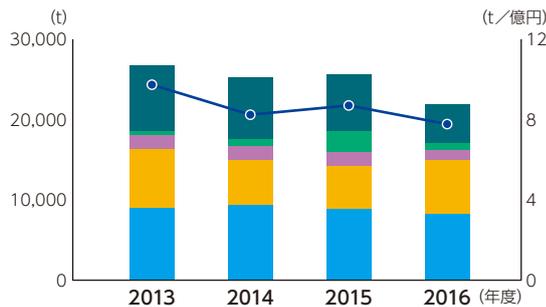
エネルギー使用量(地域別実績推移)



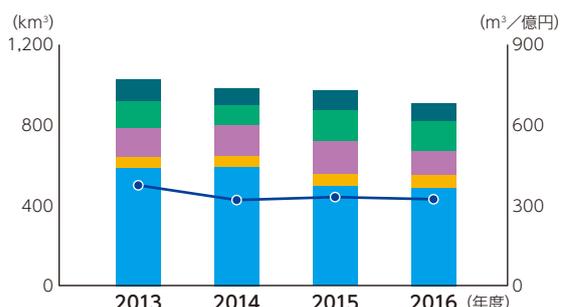
CO₂排出量(地域別実績推移)



廃棄物排出量(地域別実績推移)



水使用量(地域別実績推移)



■ アメリカ ■ 中国 ■ アジア・大洋州 ■ ヨーロッパ ■ 日本 ●-●- 連結売上高原単位

Green Communication

2014年に策定した「生物多様性方針」を基本に、企業市民の一員として、地域の環境保全活動に積極的に参加しています。グローバル各拠点での様々な取り組みを紹介します。

生物多様性方針

基本的考え方

サンデングループは、事業活動が及ぼす生態系への影響を認識し、「環境と産業の矛盾なき共存」を目指した活動を展開し、持続可能な社会の実現に貢献する。

取り組み

1. 人と自然が共存する事業活動を推進する
2. 生態系に配慮した資源を積極的に利用する
3. 地域と連携・協力しグローバルな視点で活動する
4. 自然の恵みを学ぶ環境教育活動を展開する
5. 活動の成果を広くステークホルダーに発信する

2014年4月制定

取り組み 1

グリーンウェイブ*活動など植樹、環境整備活動に積極的に参加しています。



サンデンフォレストでの森林整備活動



社員による植樹活動

*グリーンウェイブは、木を植えることをきっかけとして、生物多様性について考えるための、地球規模のキャンペーン

取り組み 2

地域、各拠点の現状に即して独自の環境活動を展開する「環境オリジナリティ活動」を展開しています。



フランス工場での食堂廃棄物のコンポスト化



台湾工場社員家族による清掃活動

取り組み 3

当社グループの環境のシンボルである「サンデンフォレスト・赤城事業所」は、設立15周年を迎えました。様々なイベントを開催し、年間約15,000名の来場者があります。また、(公社)土木学会主催の「土木学会デザイン賞2016」において、近自然工法によるサンデンフォレスト・赤城事業所の敷地造成が高く評価され、西日本科学技術研究所様をはじめ、造成に関わった関係組織が優秀賞を受賞いたしました。



近自然工法で造成したサンデンフォレスト・赤城事業所

2016年度目標と実績

2018年度を最終年度とする「中期環境基本方針」を基に設定した、2016年度の環境目標に対する活動結果についてご報告いたします。

※評価の基準（自己評価） A:達成 B:概ね達成 C:不十分

基本戦略	中期環境基本方針	2016年度環境目標	2016年度活動評価
Green Technology	製品環境指標を量産機すべてで達成 (目標値は製品別に設定)	新規開発機種で製品環境指標0.9以下(対象機種との環境性能比較)	B
		革新的な技術開発で製品使用時の負荷を低減する	A
Green Process	環境負荷低減 ●エネルギー使用量15%以上 ●廃棄物排出量15%以上 ●水使用量 5%以上 ●有害化学物質排出量5%以上 (すべて売上高原単位2013年度実績比)	・CO ₂ 排出量売上高原単位2013年度比9%削減 ・総量は2015年度実績を上回らない	C
		・廃棄物排出量売上高原単位2013年度比9%削減 ・総量は2015年度実績を上回らない	A
		〈国内事業所/関連会社〉 再資源化率99%以上(ゼロエミッション)を継続する	A
		・水使用量売上高原単位2013年度比2%削減 ・総量は2015年度実績を上回らない	A
		〈国内事業所〉 有害化学物質排出量売上高原単位2015年度比5%削減	A
		〈国内〉 輸送でのエネルギー使用原単位を1%以上削減する (2015年度比)	B
Green Management	環境活動レベル全サイトA以上	環境活動レベル評価の実施と拠点へのフィードバック	A
		環境方針展開と環境マネジメントを強化する	A
		環境教育の実施・啓発を行う	A
Green Communication	生物多様性活動のグローバル展開 外部評価の獲得	企業市民として環境保全活動に参画する	A
		アンケート・環境評価結果による活動の見直し	A
		日経環境経営度ランキングの向上	A

2016年度実績に関しましては、ホームページに掲載しています。



サンデングループは、社是のひとつに「顧客のためになるよい製品を作ります」を掲げています。魅力のある製品、システム、サービスを常にお客さまに提供し続けるという、お客さま第一の精神を実践しています。

品質向上を目指してSTQM活動を展開

サンデングループは、1994年に、独自の全社的マネジメント品質改革活動であるSTQM (Sanden Total Quality Management) 活動をスタートさせ、世界トップクラスの経営品質を目指してきました。STQMとは、「個々のマネジメント品質、および、結果品質を徹底的に向上させて、21世紀に反映する会社を創り上げるため、毎日、毎日の創造改革努力を積み重ねる行動である」と定義しています。世界中のお客さまに最速で高品質の製品を提供していくため、サンデングループは、方針管理、PDCAサイクル、人材教育に加え、職種別、階層別、事業所別などの革新・改善の活動を、様々な形で展開しています。さらに、この活動をグループ全体に広げることで、「グローバル・エクセレント・カンパニーズ」の実現に取り組んでいます。



お客さま密着の4極開発体制

グローバルな市場・お客さまに密着するために、事業と開発部門が一体となり、4極開発体制(日本・欧州・北米・アジア/中国)としています。お客さまへの新製品・新技術提案を軸とした新製品開発を積極的に展開し、併せて材料技術、信頼性技術および生産技術等、グローバルでの技術支援を幅広く展開しています。

お客さまの視点に立った改善の徹底

2016年6月開催の一般財団法人日本科学技術連盟主催の「第9回事務・販売・サービス部門全日本選抜QCサークル大会」において、サンデン・リテールシステム株式会社のタイムズスクエアサークルが、QC本部長賞*金賞を受賞しました。また、11月開催の「第46回全日本選抜QCサークル大会」では、サンデン・オートモーティブコンポーネント株式会社のホットフォーミングサークルが、QC本部長賞*銀賞を受賞いたしました。

*サークル活動の普及とその活性化、個々のQCサークル活動のレベルアップを目的として、1971年に創設された賞。「QCサークルの基本」の精神に則り、他の範となるべき活動を行うQCサークルに授与されます。



ホットフォーミングサークル



タイムズスクエアサークル

お客さま満足度向上への取り組み

サンデングループでは、事業会社ごとに方針・施策を立案し、お客さま満足度向上に取り組んでいます。具体的には、お客さまとの毎月の定例会議の開催や年1回のヒヤリングによる評価、またはお客さま満足度調査等を実施しています。

お客さまサービスセンター(国内)では、製品に関するお問い合わせやサービス依頼を365日受け付けています。これらの施策を通じて、お客さまからの声を製造工場の品質保証部門へ伝え、内容を分析し、製品改善や新製品開発につなげています。



サンデングループは、社員一人ひとりが能力を最大限に発揮できるような人財育成と職場環境を整備することが、企業としての成長につながると考えています。また、社員の心身の健康保持と徹底した労働安全衛生の確保に努めつつ、ワークライフバランスに配慮した職場環境づくりに注力しています。

「企業は人なり」の理念

「人と組織のチームワークこそ会社繁栄の礎」。当社創業の精神に脈々と流れる基本思想のもと、社員が意欲に満ち、グローバルに活躍できる会社をサンデングループは目指しています。23カ国・地域54拠点で、国や文化、性別、キャリアなどの異なる多様な社員たちが、生き生きと能力を発揮できる職場環境づくりに注力しています。



会社繁栄の礎

人事に関するデータ

(単位：人)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	
従業員数	2,414	2,407	2,394	2,304	
女性	社員数	273	279	284	298
	執行役員	0	0	0	1
	管理職	4	10	12	10
	リーダー的役割	5	4	16	18
外国人採用数(新卒)	3	2	1	5	
障がい者数	66 (2.18%)	73 (2.46%)	80 (2.64%)	91 (3.27%)	

※1 各年度3月末時点。
 ※2 サンデンホールディングスおよび7事業会社の数値となります。
 ※3 重度障がい者は1人で2人算定としています。
 ※4 ()内は障がい者雇用率の数値となります。
 ※5 障がい者数および雇用率には特例子会社雇用も含まれています。

人財育成の推進

サンデンホールディングスおよび7事業会社は、「人間力」×「技術力」=「経営力」という人財教育の基本精神を基盤とし、「リーダーシップ教育」を共通教育として、若年層から一貫して実施しています。

また、自己啓発を支援する教育制度、各部門・事業所ごとに実施する専門教育も整備しています。

女性管理職比率の向上

2017年3月末時点で執行役員1名、管理職10名のほか、リーダー的役割を担う18名の女性が活躍しています。階層

別として、入社3年目の社員と次期管理職候補は、性別を問わず教育を実施しています。また、早稲田大学ビジネススクールと連携し、地域経済成長の原動力となる次世代経営人材の育成を目的に開催している、「ビジネススクール地域活性化人材育成プログラム」にも毎年女性が参加し、新たなチャレンジをしています。

ダイバーシティ活動推進

サンデングループは、2016年12月にダイバーシティ活動の推進と動機付けを目的として、「サンデンドイバーシティフォーラム2016」を開催いたしました。「経営戦略から考えるダイバーシティとは何か」をテーマに2部構成で行われ、女性リーダーおよび次期女性リーダー候補者ならびにその直属の上司、約130名が集まったほか、タブレット端末を使って遠方拠点の女性社員も参加しました。



コミュニケーションプラザ(本庄市)において

安全衛生活動の促進

サンデングループの安全衛生は、各事業所や営業拠点、グループ会社の安全衛生担当者と連携を取りながら活動しています。国際規格「OHSAS18001」の取得については、2012年度の取得開始以来、国内全16拠点で取得を完了し、海外拠点については、2012年度に5拠点、2013年度に6拠点、2014年度に1拠点、2015年度に1拠点、2016年度は、中国とアジアの2拠点で新たに認証を取得し、国内外の31拠点で取得を完了しました。



サンデンと取引先／サンデンと株主・投資家



取引先
www.sanden.co.jp/csr/disp.cgi?mode=detail&id=4
株主・投資家
www.sanden.co.jp/csr/disp.cgi?mode=detail&id=9

グローバルに展開するサンデングループの継続的発展には、競争力のある材料・部品が不可欠です。取引先とは、真のビジネスパートナーとして信頼関係の構築に努めています。またサンデングループは、株主や投資家の皆さまに長期的にご支援いただくため、投資判断に有益な会社状況について、説明責任を遂行することが重要であると考え、積極的なコミュニケーションに努めています。

強固な信頼関係を築く「G-CF会*」を開催

「G-CF会」は、サンデングループのビジネスパートナーである、取引先の生産活動やサンデングループ製品の拡販活動に対して感謝をするとともに、グローバルでの経営活動をご理解いただき、強固な信頼関係を築くための会として開催しています。

2017年2月に開催したG-CF会には、国内61社、海外23社、計84社(162名)の取引先にご出席いただきました。その中で多大な貢献をいただきました19社を表彰させていただくとともに、エンジニアリングチェーンとサプライチェーンの活動で顕著な成果を上げられ、当社の技術開発・商品競争力に貢献していただいた取引先2社にGreen Product賞(優良環境技術提案)、Green Process賞(環境に優しいモノづくり)を授与し、優秀事例として発表していただきました。

*Global Create Future会



2017年サンデンG-CF会 取引先表彰

情報開示

当社をご理解いただくために、四半期ごとに決算短信(日英)を発行し、当社の経営理念や経営戦略、中期経営

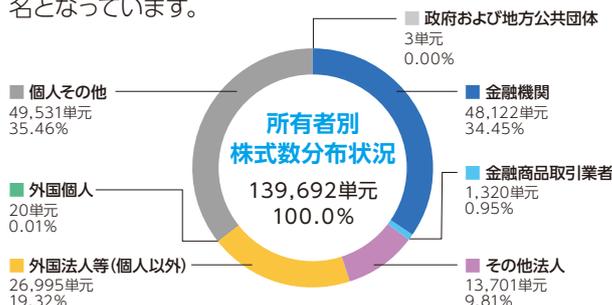
計画等について、当社ホームページや有価証券報告書等で公表しています。第2四半期と第4四半期に金融機関・機関投資家向けに決算説明会を行い、資料(日英)を当社ウェブサイトに掲載しています。当社は今後も、コーポレートガバナンス・コードの趣旨も踏まえ、情報開示の充実を図ってまいります。

株主・投資家とのコミュニケーション

2017年6月、埼玉県本庄市にあるサンデンコミュニケーションプラザにおいて、「第91期定時株主総会」を開催しました。株主の皆さまに、サンデングループの中期経営計画と環境成長領域をご理解いただくため、展示ブースを設置し、各事業会社製品とパネルで紹介しました。また、当社は2014年から、株主総会後に株主の皆さまを対象に、会社施設見学会を開催しています。2017年は約50名の方に、「環境と産業の矛盾なき共存」を実現した、森の中の工場「サンデンフォレスト・赤城事業所」をご覧いただきました。金融機関・機関投資家向けのスモールミーティングは、年間115回開催しました。引き続き、株主・投資家の皆さまの信頼と期待に応えるため、さらなるコミュニケーションの促進を図ってまいります。

株式総数と株主の状況

2017年9月30日現在におけるサンデンホールディングスの発行済株式総数は140,331,565株、総単元数は139,692単元(1単元は1,000株)、総株主数は9,280名となっています。



※2017年10月1日から、当社株式について5株を1株にする併合を行い、単元株式数を100株に変更いたしました。

サンデングループは、様々な活動を通じて地域社会と深く関わり、企業市民としての役割を果たしています。「社会との共生」を基本に据えて、地域社会との関係づくりに努めています。

アメリカ

日本の中学生と交流

SanDen International (U.S.A.) Inc. (アメリカ) は、人財育成の一環として、創業の地である群馬県伊勢崎市の中学生との交流会を2013年度から実施しています。2016年度は、65人の中学生が当社のグローバル展開について学ぶとともに、アイスクリーム作りを通じて、現地社員と英語でコミュニケーションし、異文化理解を深めました。

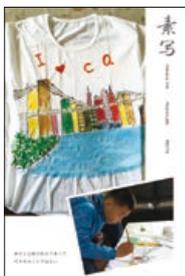


交流会参加者

中国

環境保護の理解を深める DIYコンテストを開催

SanDen Chongqing Automotive Air Conditioning Co., Ltd (中国) は、地域の子どもたちから、環境保護に関するDIY作品を募集しコンテストを行いました。応募作品31点の中から、従業員およびその家族による審査投票を行い、最優秀賞を選びました。



環境オリジナリティ活動応募作品等

イタリア

被災した学校に再建費用を

2017年2月、SanDenVendo Europe S.p.A(イタリア)とSanDenVendo German Branch of SanDen International

(Europe) Ltd. (ドイツ) は、日本のサンデングループと共に、イタリア中部地震の被災地を支援するため、他団体と合わせてコロニオ市役所に22,231ユーロを寄付し、そのうちサンデンとしては、10,000ユーロをアマトリーチェにある学校の再建費用として役立てていただきました。



寄付を届けたイタリアの社員たち

フィリピン

植林活動に参加

2017年3月、Automotive Air-conditioning Technology Philippines, Inc. (フィリピン) は、フィリピン市環境天然資源局 (CENRO) が主催する植林活動に、110本の木を寄付し、社員たちが植林に参加しました。



植林活動に参加した社員たち

日本

東日本大震災復興支援

2017年3月、5年間継続している「アファン震災復興プロジェクト」への協賛支援に対し、宮城県東松島市から当社に感謝状が贈られました。このプロジェクトでは、被災地の森づくりと、人々の心のケアのお手伝いに取り組んできました。



宮城県東松島市からの感謝状

コーポレート・ガバナンス／コンプライアンス

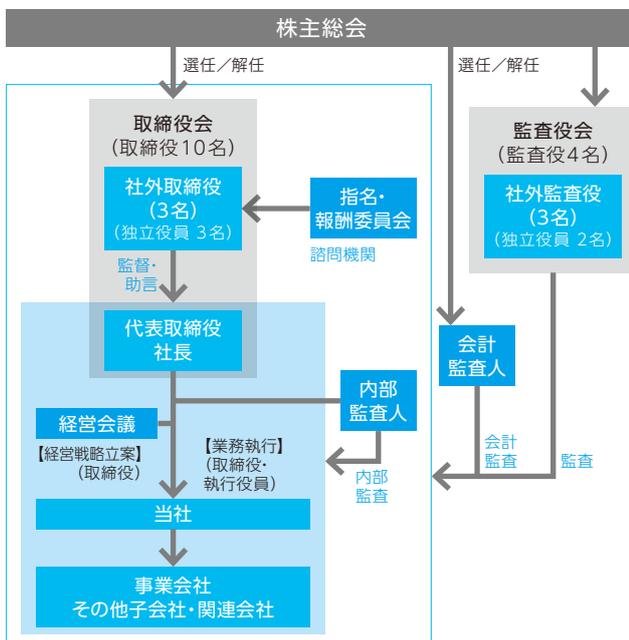
コーポレート・ガバナンス
www.sanden.co.jp/csr/dispcgi?mode=detail&id=1
コンプライアンス
www.sanden.co.jp/csr/dispcgi?mode=detail&id=2

サンデングループは、「企業理念」を基に法令等の遵守を徹底し、経営品質向上の観点からコーポレート・ガバナンス強化に努めています。また、国内外の関連会社を含むグループ全体による法令等の遵守（コンプライアンス）を、経営における最重要課題のひとつと位置付けています。全役員・社員がコンプライアンス実践に向けて様々な取り組みを進めています。

コーポレート・ガバナンス

当社は監査役設置会社であり、取締役会、監査役・監査役会、会計監査人を設置しています。また、取締役会の諮問機関として「指名・報酬委員会」を設置し、経営の透明性、客観性の確保を図っています。取締役会を構成する取締役の員数は10名（うち社外取締役3名）、監査役会を構成する監査役の員数は4名（うち社外監査役3名）です。当社は、経営監視機能の強化等を目的として独立性の高い社外取締役及び社外監査役を招聘（しょうへい）することとしており、社外役員5名を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定しています。また、取締役の任期を1年とすることにより、経営の透明性を確保し、環境変化に迅速に対応できる体制とするとともに、執行役員制度により、業務執行機能の強化及び経営の効率化を図っています。さらに、コンプライアンスやリスク管理に関する重要な問題を、経営会議及び取締役会で適時に審議し、また内部通報制度として社内外に通報・相談窓口を設置すること等により、法令遵守体制及びリスク管理体制の整備・強化に努めています。

コーポレート・ガバナンス体制



コンプライアンス

グローバル・コンプライアンス研修の実施

サンデングループは、コンプライアンスの強化をグローバルで進めています。海外現地法人責任者及び北米・中国・欧州スタッフ並びに海外赴任者に対して、日本と海外の法令の違い、独占禁止法、外国公務員への贈賄等についてを中心に研修を行いました。さらに、2017年3月に、国内全社員を対象として、独占禁止法に関するeラーニングを実施しました。このほか、輸出管理研修においては、外為法の規制や海外関連会社が所有している設備機器の取扱い上の注意喚起をしました。

コンプライアンス教育への取り組み

コンプライアンス担当者会議及びハラスメント防止委員会を定例化し、年4回開催しました。コンプライアンス担当者会議では、コンプライアンス経営の強化に向けた研修、各社のコンプライアンス目標設定とその取り組み状況報告、コンプライアンス違反についてのグループ学習を行いました。また、ハラスメント防止委員会では毎回、ハラスメント教育を実施しました。

2016年度は、新入社員83名に対してコンプライアンス基礎教育、国内グループの管理職を対象としてコンプライアンスの基礎・内部通報制度等の教育を28回、642名に実施しました。

社内規程の見直しと労務コンプライアンスの強化

2016年度は、本部・事業会社における規程の見直しと改訂を行いました。社外秘情報の管理強化のため、下期（10～3月）において、文書管理等の重要性について研修を行いました。また、労務管理コンプライアンスでは、2016年9月から12月に管理職への教育を行いました。

安全保障貿易管理体制の強化

2016年度は、輸出管理の対象範囲を広げ、各事業会社における手続きの徹底と強化を図ってまいりました。また、法改正等の周知や研修を実施し、従来と変わらぬ輸出管理レベルの維持に努めています。



環境専門家 株式会社FEM代表取締役

山口 真奈美

研究所等を経て2003年FEM設立。環境・CSR・生物多様性・国際認証等の研究・評価・教育関連事業のほか、国際的認証機関Control Unionでは、環境や社会に配慮した持続可能な国際基準を軸に、多岐にわたる認証も手掛ける。消費者庁「倫理的消費」調査研究会委員。様々な団体の理事等も兼任。

時代の変遷と共に社会における企業価値と事業の在り方は変化していきます。サンデングループでは、2016年8月から抜本的構造改革に取り組み、価値ある仕事を追求し、改善改革活動を展開する中で、「新市場」「新技術・新商品」による二つの成長軸から、今年も果敢な挑戦がなされています。

「CSR＝企業理念の実践」と位置付けられていますが、自動車機器・流通システム事業は、広く社会と一人ひとりの生活を支え、より環境技術が求められる分野とも言えます。カーエアコン用CO₂冷媒コンプレッサーの量産体制を築き、世界で初めて本格的な市場供給を開始された実績や、食品流通全体での一括した温湿度管理システムと「e-mesh moderno」によるコールドチェーンへのニーズの高まりへの対応など、世界に必要な技術を提供することで、背景にある様々な環境社会的問題を未然に防ぐことにも貢献していることでしょう。

まず、「冷やす・温める」のコア技術に「省エネ技術」が加わって、環境貢献を「商品」を通じて実践するとともに、製造時における環境データを海外も含めて変化を捉え、環境への影響を把握しながら努力されています。CO₂排出量等はさらなる改善が求められますが、廃棄物・水使用量の削減は効果が表れています。今後も、創エネや新たな取り組みの導入を通じて、グローバルに連携し活動を強化することを期待します。

また、人を大切にしている姿は、お客さま視点に立った活動や社員への人財育成・職場環境整備が進む中で、女性管理職やリーダー的役割への登用、障がい者雇用にも増加傾向が見

られ、ダイバーシティやワークライフバランスに対して進展が伺えます。構造改革と共に、より働きやすい文化を根付かせながら、「企業は人なり」の理念を世界中の多様な社員たちが実践されている姿を紙面でも報告されると、新たな発見と共に取り組みも加速するのではないのでしょうか。

それから、ESG投資やSDGs（持続可能な開発目標）が話題の昨今、投資判断に有益な情報を、より見える化し提供することが求められる時代となっています。そのような中、「G-CF会」を通じた信頼関係は、サプライチェーンにおける環境社会的リスクを回避し、責任ある調達や事業活動の基盤を強化することにもつながることでしょう。「サンデンフォレスト・赤城事業所」をはじめ、事業を通じたCSRの実践や、国内外での地域社会への貢献など、以前から地道に取り組んでいる姿が紙面およびweb等で報告されていますが、経営の透明性・客観性と、株主やあらゆるステークホルダーに対して寄り添うためにも、サンデングループが求める調達方針や判断基準等の周知徹底を図ることで、より事業を通じた社会との共生が実現するのではないのでしょうか。

サンデングループが掲げる「環境と産業の矛盾なき共存」を目指した活動を展開し、持続可能な社会の実現に貢献する。刻一刻と変化する情勢と自然環境、そして人間社会が、よりよい未来へと続いていくために、世界に誇るサンデングループの環境技術がさらに世界へと広がり、時代を切り開いていくことを期待しています。

第三者意見を受けて

今回、株式会社FEM代表取締役の山口真奈美氏から、当社グループのCSR活動に対して貴重なご示唆をいただくとともに、当社グループの重点課題である「環境」と「人」の領域における取り組みに対し高い評価をいただき、御礼を申し上げます。

「環境」においては、2017年度からスタートした中期経営計画においても、新技術・新商品・新市場を軸に環境成長領域への資源集中を重要な施策のひとつに位置付けており、持続可能な社会の実現に向けてより一層の貢献を果たしていく所存です。

「人」の領域においては、海外23カ国・地域に展開する企業として、理念の浸透をグローバルに進めるとともに、働き方改革の推進を通じて、一人ひとりの社員が能力を最大限に発揮できる環境づくりを目指してまいります。

当社は2018年に創立75周年を迎えますが、100年企業に向けて、社会から信頼され続ける企業として努力してまいります。



常務取締役 総務人事本部長

牛久保 隆平

サンデンホールディングス株式会社
<http://www.sanden.co.jp/>

本報告書に関するお問い合わせ

総務人事本部 総務統括室 広報・CSR部

〒101-8583 東京都千代田区外神田1丁目18番13号 秋葉原ダイビル
TEL : (03) 5209-3231

